

## 「3年・方位の探究 (13)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

地磁気地球儀を使つての、磁針の向きを調べる学習・・・私が予想していた以上に、探究的な活動になったように思う。今回は、子どもたちのノートの「振り返り(学んだこと)」をまとめたいと思う。



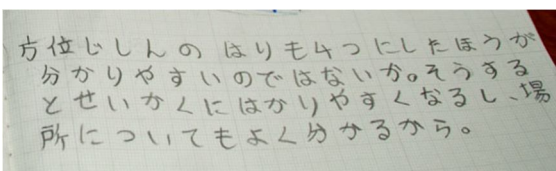
### 【子どものノートから】

※原文のまま。( ) は筆者注。◆男児 ●女児

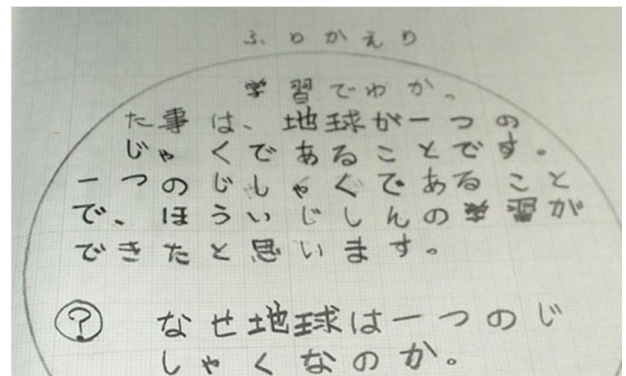
◆「世界のどこに行っても、北と南があり、その向きもそれぞれだとわかりました。でも、そうと言っても、赤いはり(磁針)を集めると、同じヶ所をさしていることがわかりました。みんなではりの(を)かいた黒板を見ると、兄弟のように同じ向きで、面白いです。」

●「地球は、人間にはわからないけど、地球地体(自体)がじしゃくで、さい始(最初)はびっくりしました。そして、じしゃくには北や南があるのに、東や西がないのもふしぎになりました。」

◆「まとめ。ぼくは、地球はじしゃくのかたまりだということを知った。地球にたくさんの国や町があることも知った。知らなかった国を知れて(知ることができて)よかった。ぼくは、方位じしんが、北と南はよくさしてくれるので、北と南はよくわかりました。でも西と東に少しふこう平な気がします。西と東もあるんだから、方位じしんのはりも、4つにしたほうが分かりやすいのではないか。そうすると、せいかくにはかりやすくなるし、場所についてもよく分かるから。」



●「わたしは、まず、研究所(班)のみんなで、じしゃくの入った地球ぎを作れて、うれしかったです。それを使って、世界中の方位をしらべているうちに、なんだか、本とうに、みんなで世界りょ行をしているような気持ちになってきました。今度、パパやママと外国に行くときに、ちょっとコーキューな(高級な)方位じしんを持って、エッヘルトー(エッフェル塔)の方位をはかってみたいです。」



●「わたしのはんの、Kくんが、すごいことに気がつきました。北きよくの近くのスバルバイル島(スバル諸島)に方位じしんをおいたら、はりは北をさしたんだけど、それだけじゃなくて、はりが斜めになって、北きよくに近いほうがさがっていたのです!!! 南きよくの近くでもためしたら、こんどは、南がわにさがっていました。方位じしんのはりは、じつは上下にも動く??これは大発見でしょうか???'」

◆「北極と南極の位ちからはんだんすると、ぼくの考えでは、東極はキト(エクアドルの首都)にあって、西極はコンゴ共和国のあたりにあると思う。一応、みんなでたしかめてみたら、やっぱりそうだった。」

●「方位というのは、目には見えないし、重さ?もないし、何かひっぱってるわけでもないのに、方位じしんは世界中どこでも北をさします。そのしくみが、じ石地球ぎを作って、みんなで実験して、はっきりスッキリわかりました。楽しかったです。」

まだまだある。こういうノートは、何十冊積んであっても、読むのが苦にならない。この活動を通じて、「探究し続ける姿」「問い続ける姿」「協力して科学を創造する姿」を見られたような気がする。